



## 日本政治論Ⅱ

羽田内閣・村山内閣

浅野正彦

1


羽田内閣

2


2

総理大臣氏名	就任日	与党
鳩山一郎	22-Nov-55	LDP
石橋湛山	23-Dec-56	LDP
岸信介	10-Jul-57	LDP
池田勇人	19-Jul-60	LDP
佐藤栄作	3-Jun-65	LDP
田中角栄	7-Jul-72	LDP
三木武夫	9-Dec-74	LDP
福田赳夫	24-Dec-76	LDP
大平正芳	7-Dec-78	LDP
鈴木善幸	17-Jul-80	LDP
中曽根康弘	11-Nov-82	LDP (+NLC)
竹下登	31-Oct-87	LDP
宇野宗祐	3-Jun-89	LDP
海部俊樹	10-Aug-89	LDP
宮沢喜一	5-Nov-91	LDP
細川護熙	9-Aug-93	JNP+JRP+NPH+JSP+DSP+SDF+CGP
羽田孜	29-Apr-94	JNP+JRP+DSP+SDF+CGP
村山富市	30-Jun-94	LDP+JSP+NPH
橋本龍太郎	11-Jan-96	LDP+JSP+NPH
橋本龍太郎	7-Nov-96	LDP
小淵恵三	30-Jul-98	LDP+CGP+LP
森喜朗	5-Apr-00	LDP+CGP+CP
小泉純一郎	26-Apr-01	LDP+CGP+CP
安倍晋三	6-Sep	LDP + CGP
福田康夫	7-Oct	LDP + CGP

3



## ● 日本の政治家 羽田 孜 はた つとむ



内閣官房内閣広報室より  
公表された肖像写真

### 羽田内閣(1994.4.28-6.30)

- 細川内閣総辞職 → 非自民・非共産の枠組政権
- 日本社会党の連立離脱  
→ 少数与党での発足
- 在任64日で退陣
- 在任期間は日本国憲法下では最短
- 日本の憲政史上3番目に短い内閣

生年月日 1935年8月24日

出生地 ● 日本 東京都東京市蒲田区  
(現、東京都大田区蒲田)

没年月日 2017年8月28日 (82歳没)

死没地 ● 日本 東京都世田谷区

出身校 成城大学経済学部経営学科

前職 小田急バス社員

所属政党 (自由民主党→)  
(新生党→)  
(新進党→)  
(太陽党→)  
(民政党→)  
(民主党→)  
民進党

称号 経済学士 (成城大学・1954年)

「社会党離脱、不安のスタート-羽田連立内閣-」:

Youtube

4

4



5

羽田孜 選挙結果

year	ku	kun	dm	rank	wl	age	vote	voteshare
1969	nagano	2	3	1	1	34	73,325	25
1972	nagano	2	3	1	1	37	67,307	22
1976	nagano	2	3	3	1	41	61,243	19
1979	nagano	2	3	1	1	44	71,160	22
1980	nagano	2	3	1	1	44	80,943	25
1983	nagano	2	3	1	1	48	71,880	21
1986	nagano	2	3	1	1	50	88,908	26
1990	nagano	2	3	2	1	54	71,192	20
1993	nagano	2	3	1	1	57	146,870	40
1996	nagano	3	1	1	1	61	161,670	42
2000	nagano	3	1	1	1	64	163,382	41
2003	nagano	3	1	1	1	68	150,203	37
2005	nagano	3	1	1	1	70	143,728	36

6

6



内閣総理大臣 羽田 孜

法務大臣 永野茂門

(1994.5.8— 中井 治)

外務大臣 柿澤弘治

大蔵大臣 藤井裕久

文部大臣 赤松良子

厚生大臣 大内啓伍

農林水産大臣 加藤六月

通商産業大臣 畑 英次郎

運輸大臣 二見伸明

郵政大臣 日笠勝之

労働大臣 鳩山邦夫

建設大臣 森本晃司

自治大臣 石井 一(兼)

内閣官房長官 熊谷 弘

国家公安委員会委員長 石井 一(兼)

総務庁長官 石田幸四郎

北海道開発庁長官 佐藤守良(兼)

防衛庁長官 神田 厚

経済企画庁長官 寺澤芳男

科学技術庁長官 近江巳記夫

環境庁長官 浜四津敏子

沖縄開発庁長官 佐藤守良(兼)

国土庁長官 左藤 恵

内閣法制局長官 大出峻郎

内閣官房副長官 北村直人

内閣官房副長官 石原信雄

7

7



## 羽田 孜 略歴

- 1935年 東京都生まれ  
(父武嗣郎は朝日新聞記者 → 衆議院議員)
- 1958年 成城大学経済学部卒業
- 1958年 小田急バス入社
- 1963年 父武嗣郎が脳出血で倒れる
- 1968年 小田急バス退社
- 1969年 衆院選当選 (長野2区) 田中派  
トップ当選 73,325票
- 1975 郵政政務次官
- 1976 農林政務次官 → 農林族として活躍
- 1980 自民党農林部会長
- 1981 衆議院農林水産委員長
- 1984 自民党総務局長
- 1985 農林水産大臣
- 1987 自民党行財政調査会長

8

8



1987 自民党総合農政調査会長  
 1988 農林水産大臣  
 1989 自民党筆頭副幹事長  
 1990 自民党選挙制度調査会長  
 1991 大蔵大臣  
 1993 新生党党首  
       副総理兼外務大臣  
 1994 内閣総理大臣（4月～6月）  
       新進党副党首  
 1995 新進党最高諮問会議  
 1996 太陽党党首  
 1998 民政党代表  
       民主党幹事長  
 2000 民主党特別代表  
 2002 民主党最高顧問  
 2017 死去（82歳）

9

9



## 細川首相の辞任（1994.4.25.）

複数の政党が羽田孜を国会で首相に指名（4.28）

新生党  
 日本新党  
 民社党

公明党  
 自由党  
 改革の会

社会党  
 新党さきがけ

→ 首相指名に先立ち、統一会派「改新」を結成

社会党が反発

羽田、社会党の連立政権復帰を努力

→ 組閣直前に連立政権から離脱

→ 閣外協力に転じた

少数与党内閣として発足

在職期間・・・64日

東久邇宮内閣に次ぐ戦後2番目に短命な内閣

・・・予算管理内閣

10

10



**羽田内閣のスローガン**

「改革と協調」

予算の成立に全力を挙げた

公共料金値上げの年内凍結

首相官邸直通のFAX設置

予算案は成立

少数与党状態の解消を狙う

連立与党と社会党との間の政策協議 → 決裂

11

11



永野茂門法相

毎日新聞のインタビューで「南京大虐殺はでっち上げだ」と発言

わずか10日間で更迭される(1994年5月)

[菅長官「極めて遺憾」“南京大虐殺”記憶遺産申請\(14/06/11\)](#)  
[Youtube](#)

12

12



自民党が内閣不信任決議を衆議院に提出

自民党と社会党の賛成多数で可決される見込みが高い

羽田首相は、自発的に内閣総辞職（1994.6.25）

羽田は、解散総選挙に打って出る構えも見せたが諦めた

その理由

1.政治空白を招く恐れ

2. 総選挙 → 従来の中選挙区制による総選挙

13

13



## 羽田総理が解散なしの総辞職を選んだ理由

「総辞職か解散か、本当に悩んだ。個人的には国民に信を問う方がいいと思った。だが、政治改革法は区割り法案を残すだけとなっていて、それを成し遂げるのが大きな前提と考えた。各党を見ると、実際には選挙を戦えないという現状はあった。だが、勝ち負けよりも選挙をやれば新しい制度が遅れる。それが心配だった。そうになると、日本の政治のためにならない。ここは自らが下がって道が開けるならそうしようと判断した。」

（羽田孜：塩田潮『辞める首相 辞めない首相』2011, p.144）

14

14



## 村山内閣

15

15



● 日本の政治家  
村山 富市  
むらやま とみいち



内閣官房内閣広報室より  
公表された肖像写真

生年月日 1924年3月3日 (96歳)  
出生地 ● 日本 大分県大分市  
出身校 明治大学専門部政治経済科卒業  
前職 大分県漁村青年同盟書記長  
現職 社会民主党名誉党首  
明治大学顧問  
所属政党 (日本社会党→)  
(社会党左派→)  
(日本社会党→)  
社会民主党

村山内閣(1994.6.30~1996.1.1)

大分県大分市議会議員

→大分県議会議員

→衆議院議員

→総理大臣

→社会民主党名誉党首

→明治大学校友会名誉会長

16

16





17

村山富一 選挙結果

year	ku	kun	dm	rank	wl	age	vote	voteshare
1972	oita	1	4	1	1	48	93,256	18
1976	oita	1	4	1	1	52	102,307	19
1979	oita	1	4	1	1	55	86,736	15
1980	oita	1	4	5	0	56	69,466	12
1983	oita	1	4	1	1	59	121,919	21
1986	oita	1	4	1	1	62	107,988	18
1990	oita	1	4	1	1	65	108,343	18
1993	oita	1	4	1	1	69	106,260	17
1996	oita	1	1	1	1	72	106,258	36

18

18



### 村山内閣－平成6年6月30日成立

内閣総理大臣 村山富市

法務大臣 前田勲男

外務大臣 河野洋平

大蔵大臣 武村正義

文部大臣 与謝野 馨

厚生大臣 井出正一

農林水産大臣 大河原太一郎

通商産業大臣 橋本龍太郎

運輸大臣 亀井静香

郵政大臣 大出 俊

労働大臣 浜本万三

建設大臣 野坂浩賢

自治大臣 野中広務(兼)

内閣官房長官 五十嵐広三

国家公安委員会委員長 野中広務(兼)

総務庁長官 山口鶴男

北海道開発庁長官 小里貞利(兼)

平7.1.20－ 小澤 潔(兼)

防衛庁長官 玉沢徳一郎

経済企画庁長官 高村正彦

科学技術庁長官 田中真紀子

環境庁長官 桜井 新

平6.8.14－ 宮下創平

沖縄開発庁長官 小里貞利(兼)

平7.1.20－ 小澤 潔(兼)

国土庁長官 小澤 潔(兼)

国務大臣 平7.1.20－ 小里貞利

内閣法制局長官 大出峻郎

内閣官房副長官 園田博之

内閣官房副長官 石原信雄

平7.2.24－ 古川貞二郎

19

19



### 村山富市 略歴

1924年 大分県大分市の漁師の家に生まれる

1938年 東京で働きながら東京市立商業学校に進学

1944年 学徒動員（石川島造船所）

1944年 学徒出陣（陸軍）

1946年 明治大学専門部政治経済科卒業

1955年 大分市議会議員選挙当選（当選3回）

1963年 大分県議会議員選挙で当選（連続3回）

1972年 衆議院議員総選挙で当選（当選8回）

1993年 日本社会党委員長に就任

1994年 羽田内閣では、日本社会党として閣外協力

日本社会党を排除する新党構想『改新』に激怒

→ 連立政権から離脱

→ 党内抗争に発展

1994年 首相

1996年 辞任

20

20



## 村山内閣（自・社・さ連立政権）が成立（1994.6.30）

羽田内閣が総辞職（1994.5.25）

自由民主党は政権復帰を目指す

- ・ 自民党（河野洋平 総裁）
- ・ 社会党（村山富市 委員長）
- ・ 新党さきがけ（武村正義 代表）

村山委員長を内閣首班として担ぐことを河野総裁が提案

自社さ共同政権構想に合意

[「村山内閣誕生 - 自社連立 -」:](#)  
[Youtube](#)

21

21



海部元総理が「社会党委員長を首班に支持できない」と主張

中曽根元総理も同調

連立与党は海部を統一候補に指名

首班指名（1994.6.29）

衆議院で過半数に達せず

➔ 決選投票

村山が海部を破る

村山・・・内閣総理大臣に指名される

自社さ連立内閣が発足

22

22



### 村山内閣の施政方針

「人にやさしい政治」  
「安心できる政治」

戦後の政治的懸案事項に取り組んだ

自社さ連立政権だからこそ実現できた

しかし、社会党は衆議院議員総選挙で大敗した政党

=有権者にNOを突きつけられた政党

ひょんなことから、数の力で政権を取ってしまった

23

23



### 政策綱領

「自社さ共同政権構想」(1994.6)

→ 村山内閣、第1次橋本内閣の政策綱領になる

1. 日本国憲法の尊重
2. 小選挙区比例代表並立制の実施
3. 税制改革の前提として行政改革の断行
4. 消費税の引き上げの方向を認める
5. 自衛隊と日米安全保障条約を維持
6. 国連平和維持活動に積極的に参加
7. 国連安保理事会 常任理事国参加問題には慎重に対処

24

24



### 村山内閣の成果

臨時国会で政府提出法案がすべて成立（36年ぶり）

1. 税制改革法案
2. 小選挙区区割り法
3. 年金改正法
4. 世界貿易機構(WTO)設立協定の締結承認関連法
5. 自衛隊法改正
6. 被爆者看護法

25

25



### 村山内閣の特徴

「社会党の葬式」だ

#### 1. 「自衛隊合憲」「日米安保堅持」と発言（1994.7）

→ 日本社会党のそれまでの政策を転換

日米安全保障条約体制の継続を確認

社会党にとってはコペルニクス的な政策転換

村山は社会党でも右派

→ 政策転換への抵抗感も比較的薄かった

26

26



## 2.阪神・淡路大震災発生(1995.1.17)

政府の対応が遅いと批判

「なぜ自衛隊派遣が遅れたのか？」

「なにぶんにも初めてのことでしたので」(村山首相)

→ 内閣支持率が急落

日本の杜撰極まりない危機管理体制が露呈

27

27



## 自衛隊出動命令の遅れ

法制度上、兵庫県知事の要請がなければ出動できなかった

1995年1月17日 午前5時46分ごろ・・・震災発生

午前8時10分・・・陸上自衛隊姫路駐屯地→兵庫県庁  
出動要請を出すよう打診

午前10時前・・・自衛隊のヘリコプターで被災地の情報収集

兵庫県知事が登庁したのはこの後

午前10時10分・・・知事の命令を待たず兵庫県参事が出動要請

午前10時14分・・・自衛隊が出動

28

28



「神戸の地震の時なんかは、(自衛隊の派遣を要請する)首長の判断が遅かったから、2千人余計になかった」(石原東京都知事)



「石原さんの誤解。たしかに危機管理面で反省はあるが、要請が遅れたから死者が増えたのではない」と反論(貝原俊民)

「前例のない未曾有の災害で、かつ法制度の未整備な状態では、村山以外のだれが内閣総理大臣であっても迅速な対応は不可能であった」(石原信雄 内閣官房副長官)

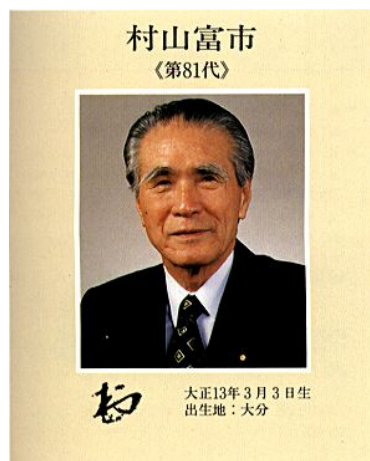
29

29



「初動対応については、今のような危機管理体制があれば、もっと迅速にできていたと思う。あれだけの死者を出してしまったことは、慚愧に堪えない。1月17日の朝は毎年、自宅で黙とうする。亡くなられた方のめい福を祈り、残された家族の幸せを願っている。」

(村山首相)



30

30



### 3. オウム真理教による地下鉄サリン事件 (1995.3.20)

村山首相、テロリズムに対する内閣の断固とした決意を示した

オウム真理教に対し破壊活動防止法適用が検討

公安調査庁が処分請求

公安審査委員会は破壊活動防止法適用要件を満たさないと判断

→ 破壊活動防止法の適用は見送られた

31

31



### 破壊活動防止法(1952年公布)

暴力主義的破壊活動を行った団体に対し、規制措置を定めた法律

当初は日本赤軍など共産主義勢力の拡大を防止する目的

オウム真理教への破壊活動防止法適用

← 自民党の後藤田元副総理らから異論

村山…公安調査庁の調査を尊重



32

32





4. 「歴史を教訓に平和への決意を新たにする決議(不戦決議)」  
可決(1995. 6) 衆議院本会議にて

自民・社会・さきがけ3会派共同提出

5. 全日空857便ハイジャック事件(1995.6)

特殊武装警察に強行突入を指示し鎮圧

6. 「財団法人女性のためのアジア平和国民基金(アジア女性基金)」を発足(1995.7)

→ 1997年1月、韓国人元慰安婦への見舞金支給が開始

33

33



7. 参議院議員通常選挙(1995.7)

非自民首相の国政選挙としては自民党結党以来初めて

社会党が大敗北

→ 村山は辞意を漏らす

与党側が慰留

→ 内閣を改造

34

34



8. 村山談話(『戦後50周年の終戦記念日にあたって』と題する談話)を閣議決定(1995.8)

## 日本が行ったとされる「侵略」や「植民地支配」について公式謝罪

日本国政府の公式歴史見解として扱われている

## 歴代政権に引き継がれている

## 小泉内閣では・・・村山談話を踏襲した「小泉談話」(2005.8)

安倍内閣では・・・「アジアの国々に対して大変な被害を与え、傷を与えたことは厳然たる事実」(2006.10)

## 村山談話を受け継いで行く姿勢

35

35



# テキスト分析

- ・膨大なテキスト情報を体系的に分析する技術

- Computer Science
- Digital Humanity

## テキスト情報

- ブログ、ツイッター
- ウェブサイト
- 書籍、資料、レポート
- その他多数



<http://www.jasondavies.com/wordcloud/#> 36

36



## 「戦後50周年の終戦記念日にあたって」(村山談話)

平成7年8月15日

先の大戦が終わりを告げてから、50年の歳月が流れました。今、あらためて、あの戦争によって犠牲となられた内外の多くの人々に思いを馳せるとき、万感胸に迫るものがあります。

敗戦後、日本は、あの焼け野原から、幾多の困難を乗り越えて、今日の平和と繁栄を築いてまいりました。このことは私たちの誇りであり、そのために注がれた国民の皆様1人1人の英知とたゆみない努力に、私は心から敬意の念を表わすものであります。ここに至るまで、米国をはじめ、世界の国々から寄せられた支援と協力に対し、あらためて深甚な謝意を表明いたします。また、アジア太平洋近隣諸国、米国、さらには欧州諸国との間に今日のような友好関係を築き上げるに至ったことを、心から喜びたいと思います。

平和で豊かな日本となった今日、私たちはややもすればこの平和の尊さ、有難さを忘れがちになります。私たちは過去のあやまちを2度と繰り返すことのないよう、戦争の悲惨さを若い世代に語り伝えていかなければなりません。とくに近隣諸国の人々と手を携えて、アジア太平洋地域ひいては世界の平和を確かなものとしていくためには、なによりも、これらの諸国との間に深い理解と信頼にもとづいた関係を培っていくことが不可欠と考えます。政府は、この考えにもとづき、特に近現代における日本と近隣アジア諸国との関係にかかわる歴史研究を支援し、各国との交流の飛躍的な拡大をはかるために、この2つを柱とした平和友好交流事業を展開しております。また、現在取り組んでいる戦後処理問題についても、わが国とこれらの国々との信頼関係を一層強化するため、私は、ひき続き誠実に対応してまいります。 ……以下省略…

37

37



## "On the occasion of the 50th anniversary of the war's end"

August 15, 1995

The world has seen fifty years elapse since the war came to an end. Now, when I remember the many people both at home and abroad who fell victim to war, my heart is overwhelmed by a flood of emotions.

The peace and prosperity of today were built as Japan overcame great difficulty to arise from a devastated land after defeat in the war. That achievement is something of which we are proud, and let me herein express my heartfelt admiration for the wisdom and untiring effort of each and every one of our citizens. Let me also express once again my profound gratitude for the indispensable support and assistance extended to Japan by the countries of the world, beginning with the United States of America...

38

38



河野談話 (1993年8月4日)



小泉談話 (2005年8月15日)



村山談話 (1995年8月15日)



安倍談話 (2015年8月15日)



39

39



保守系議員などにより村山談話とは見解を異にする内容のコメント

## 村山談話に対する保守からの批判

「日本は当事国に公式に謝罪し補償も済ませているので、これ以上の謝罪論は不要」

➔ 中国、韓国の政府から反発

## 村山談話に対する革新からの批判

「『アジア太平洋戦争に日本政府は巻き込まれた。悪いとは思いますが仕方がなかった』という立場を表すに過ぎない」

40

40



### 村山内閣総辞職（1996.1.11）

「総理大臣の辞任は誰にも相談せず自分で決めた。人に相談しても、いろいろな意見があつてなかなか決まるものではない。やはり、進退は自分の判断で決める以外なかった。そういう意味で総理は孤独なものだ。」

（村山富市著 『村山富市が語る「天命」の五六一日』）